

県立大学小浜キャンパスを 育てる会

会報



ごあいさつ

会長 松崎 晃治

地域の皆さまには、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃は本会の諸事業に格別のご理解と、ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症は、依然として予断を許さない状況が続いています。

県内でも連日感染が確認され、未だに行動が一部制限されるなど、県立大学においても、授業や課外活動等において不自由を余儀なくされていることかと思えます。ただ、先行きが不透明だった昨年までとは異なり、少しずつではありますが、取るべき対策が確立されてきたように感じています。

本会は小浜キャンパスの開学に先立ち平成3年に結成し、以来、地域から親しまれる大学となるよう各種事業を行ってまいりました。このような中、本年4月に、水産増養殖を専門的に学べる「先端増養殖科学科」が海洋生物資源学部新たに設置されました。今後は、嶺南を拠点とした養殖技術の発展や、将来の地場産業を担う人材の育成につながるものと大きな期待を寄せているところです。

育てる会としても、県立大学の動きを後押しするとともに、小浜キャンパスと地域との交流促進を図り、大学と地域が共に発展できるよう、事業を展開してまいりますので、皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



ごあいさつ

福井県立大学海洋生物資源学部長 水田 尚志

令和4年4月から福井県立大学小浜キャンパスの海洋生物資源学部長に就任いたしました水田尚志と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

「小浜キャンパスを育てる会」の皆さまには、定置網漁業体験や魚加工品作製体験、さらには学生や教員の研究フィールドの提供など、本学海洋生物資源学部における教育および研究に対して多大なるご理解とご協力・ご支援をいただき、誠に感謝しております。

令和2年以降、新型コロナウイルス感染症対策のため、本学においても遠隔授業を余儀なくされておりました。令和3年度途中から対面授業の再開に至りましたが、依然として新型コロナ感染症の影響が継続しており、引き続き感染防止対策に最大限配慮しながら、講義や実習、研究活動を進めているところです。令和3年度に本会で計画されていた交流事業も一部を除き軒並み中止となり、大変残念な思いです。

一方、うれしいニュースとしまして、本年4月に「先端増養殖科学科」がいよいよスタートしました。来年4月には新2年生を小浜キャンパス・かつみキャンパスへ迎えるべく、新学科棟の建設も今後本格化してまいります。

コロナ禍において皆さまも大変な状況にあるかと推察いたします。ご自愛くださるようお願いいたしますとともに、皆さまのご健康と新型コロナ感染の早期収束を祈念しております。

公立の福井県立大学の教員である私たちは、常に地域や社会への貢献につながる活動を意識しながら、教育および研究活動の充実を図りたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

育てる会では、地域の方々に大学に親しみをを持っていただくため、また、県外出身者が多い学生の皆さんに若狭地域のことをよく知っていただくため、様々な事業を実施しています。

会員と学生が直接触れ合える事業では、お互い良い刺激を与えています。

「令和3年度 総会・講演会」を開催しました！ 〈令和3年6月〉

令和3年6月15日（火）に働く婦人の家（大手町）で令和3年度の総会・講演会を開催しました。1年間の事業方針や計画が承認された後、福井県立大学海洋生物資源学部の田中祐希准教授に『黒潮大蛇行：そのメカニズムと影響』と題してご講演いただきました。



「学生生活応援事業」を実施しました！ 〈令和3年7月〉

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、大学生の学生生活にも大きな影響が出ていることを鑑み、県立大学小浜キャンパスに在籍する全学生（188名）に対して、生活応援の食料品を配布しました。配布の際には、育てる会会員を代表して、松崎会長から学生に宛てた応援のメッセージを同封しました。



令和3年度 県立大学小浜キャンパスを育てる会 事業報告

5月	12日	令和3年度 計画会議
6月	15日	令和3年度 総会
	25日	会報 第28号発行（市内全戸配布） 令和3年度 若狭地域産学官水産連絡会議 第1回幹事会（書面開催）
7月	5日	学生生活応援事業 ・学生（大学院生を含む）188名に食料品等を配布
	29日	令和3年度 若狭地域産学官水産連絡会議 総会
9月		令和3年度 若狭地域産学官水産連絡会議 第2回幹事会（書面開催）
10月	30日~31日	大学祭（白檜祭）への支援
		フィールドワーク講義への補助（交流事業） 【新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止】 教育GPへの支援（若狭の水産物加工体験・定置網漁業体験） 【新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止】

12月	22日	学生・教員等が案内する施設見学会（交流事業） ・海洋生物資源臨海研究センター（堅海）見学
2月	25日	令和3年度 研修会 ・県立大学生物資源学研究科 森本 光（博士前期課程1年）研究成果発表 「ウナギ目魚類を中心とした海洋生物に由来するコラーゲンについて」 ・県立大学生物資源学研究科 根木 遙介（博士前期課程1年）研究成果発表 「三方湖における温室効果ガスメタンと水生昆虫ユスリカの関係」
		令和3年度 若狭地域産学官水産連絡会議 第3回幹事会 【新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止】
通年		学生に対する市内各種イベント情報の提供 【新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止】

※新型コロナウイルス感染症の拡大のため、令和3年度の出張キャンパスは中止しました。

大学祭「第29回 白樺祭」が開催されました！ 〈令和3年10月〉

令和3年10月30日（土）、31日（日）に県立大学小浜キャンパス（学園町）で「若海」をテーマに第29回白樺祭が開催されました。新型コロナウイルス感染症対策として、内容は学生向けのものだけとなりましたが、ステージ企画の一般に向けたインターネット中継など新たな試みが行われました。育てる会からも企画実施への補助金を支援しました。



「臨海研究センター見学会」を開催しました！ 〈令和3年12月〉

令和3年12月22日（水）に海洋生物資源臨海研究センター（堅海）で見学会を開催しました。当日は会員27名が参加して、学生や教職員の案内のもと、研究棟や飼育実験棟を見学しました。見学後は、同センター長の富永修教授から令和4年4月に新設された先端増養殖科学科についての説明を受けました。



「令和3年度 研修会」を開催しました！ 〈令和4年2月〉

令和4年2月25日（金）に県立大学小浜キャンパス（学園町）で研修会を開催しました。研修会は、小浜キャンパスに在籍する学生が、会員に対して自身の研究成果を発表する場として毎年開催しています。令和3年度は、生物資源学研究科の森本光さんと根本遥介さんに、自身の研究成果を発表いただき、参加した会員の方々も興味深い内容に熱心に耳を傾けていました。

出張キャンパスのご案内



会では、小中学生の皆様には海をはじめとする自然に対する興味を深めていただくため、また、小浜キャンパスを身近に感じていただくために、小浜キャンパスの教員や学生による出前講座「出張キャンパス」を実施しています。

私たちの生活に身近な話題をわかりやすく、楽しく教えていただきます。ぜひ、各学校の総合学習の時間等でご活用ください。きっと新たな発見がたくさんあります！

詳しくは、[県立大学小浜キャンパスを育てる会事務局](#)（小浜市未来創造課内）
TEL0770-64-6008（直通）までお問い合わせください。

※新型コロナウイルスの感染拡大状況等により変更・中止する場合があります。

令和4年（2022年）4月 福井県立大学 海洋生物資源学部に 「先端増養殖科学科」を新設

新学科設置の背景

世界的な人口の増加や開発途上国の経済発展などを背景に、世界の水産物需要が拡大する一方、過剰な漁獲や気候変動の影響により天然資源が減少しており、水産資源の安定的な確保を図るため、世界的にも養殖業への期待と関心が高まっています。このような背景をふまえ、福井県立大学では、令和4年（2022年）4月に水産増養殖のことを学ぶ「先端増養殖科学科」を海洋生物資源学部（小浜キャンパス・かつみキャンパス）に新設しました。

先端増養殖科学科の教育の特徴

先端増養殖科学科では、水産増養殖に関する現状と問題点を科学的に理解し、先端技術を実践的に活用する能力を身につけることで、「増養殖分野」でリーダーシップをもって活躍できる人材を育成することを目指しています。これらを実現するため、新学科では①水産増養殖の知識と技術を少人数で深く学ぶ、②新しい飼育施設と若狭湾をフィールドにして魚類、無脊椎動物、藻類などの生産技術を基礎から応用まで学ぶ、③若狭地域で水産増養殖に関わる方々から指導を受けて実践的に学ぶ、などのカリキュラムを組んでいることが特徴です。



マサバの飼育

「かつみキャンパス」はどういうところ？

かつみキャンパスは、永平寺・小浜・あわらの既存キャンパスに続く4番目のキャンパスとして、小浜市堅海地区に設置されました（図1）。令和5年夏には、先端増養殖科学科の研究講義棟と新飼育棟が完成予定です。

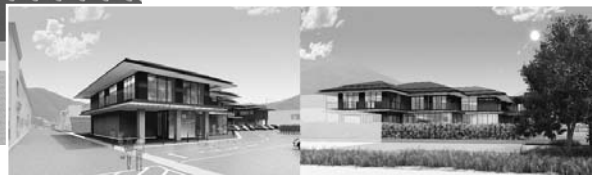
かつみキャンパスには本学の海洋生物資源臨海研究センターや福井県栽培漁業センターが隣接し、各機関の相互の連携によ



図1. 各キャンパスの位置



↑ かつみキャンパス 令和5年8月完成予定



← 小浜キャンパス 新学科棟
令和5年3月 完成予定

り、実践的な水産技術を学ぶことができ、充実した教育と研究の深化が期待されます。

先端増養殖科学科が新設され、海洋生物資源学部はどう変わったの？

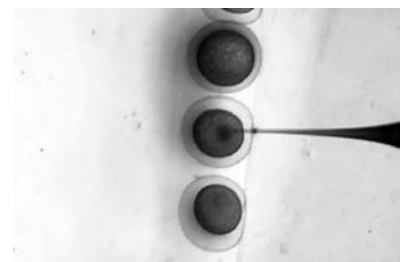
海洋生物資源学部は、既存の海洋生物資源学科と新設の先端増養殖科学科の2学科体制になりました。海洋生物資源学科(定員50名)に、先端増養殖科学科の30名を加え、1学年の定員は80名に増えるとともに、教育・研究を担当する教員も増員されました。学生と教員が増え、施設の充実を図ることで、海洋生物資源学部はこれまで以上に海洋や生物のことを幅広く学べる場として生まれ変わりました。

先端増養殖科学科の学生は、海洋生物資源学科の学生と同様に1年次は永平寺キャンパスで学び、2年次から小浜キャンパスで学びます。2年次後期からは主に「かつみキャンパス」に学びの場を移して、専門科目の学習や実験・実習などをおこないます。

令和4年入学の第一期生31名が令和5年4月に小浜キャンパスに移行します。今後、海洋生物資源学科の学生と合わせ、毎年80名の学生が小浜市や近隣の市町で新しい生活を始めます。

若狭地域と先端増養殖科学科の関わり

先端増養殖科学科では、水産増養殖の現場での実習をカリキュラムに加えています。若狭湾を中心とした自然豊かな実験・研究フィールドが、学生の教育・研究を支えます。また、学生が若狭地域の水産増養殖の現場へ出かけることによって、学生と地域の皆さまとの間に新しい交流が生まれます。この交流を通して、学生が若狭地域のことを深く学ぶきっかけになるだけでなく、学生の感性が地域の皆さまに新しい視点を持ち込む機会が生まれるかもしれません。新学科の設置を契機として、海洋生物資源学部はこれまで以上に地域の皆さまに貢献することを目指しています。今後ともよろしくお願いたします。



魚卵への試薬注入



ふくいサーモンの測定風景

「水産増養殖と環境まちづくり」(福井県立大学 海洋生物資源学部編)



海洋生物資源学部の教員が中心となり、水産増養殖の社会への貢献や、今後の水産増養殖の研究や展望について分かりやすく解説したブックレットを作成しました。本書を通して「先端増養殖科学科」が目指す水産増養殖の未来や福井県立大学としての期待を感じていただけたらと思います。

このブックレットは、福井県立大学のホームページからダウンロードすることができます。ぜひご覧ください。

<https://www.fpu.ac.jp/news/d153809.html>



先端増養殖科学科の最新情報をホームページとTwitterでもお知らせしています。

- ・ホームページ <https://sites.google.com/g.fpu.ac.jp/aquasci/>
- ・海洋生物資源学部 Twitter https://twitter.com/fpu_kaiyo



沿革

- 平成 4年 4月 福井県立大学 開学
- 平成 5年 4月 福井県立大学小浜キャンパス 開設
- 平成 8年 4月 福井県立大学大学院博士前期課程開設
- 平成10年 4月 福井県立大学大学院博士後期課程開設
- 平成15年 3月 海洋生物資源臨海研究センター開設（堅海）
- 平成19年 4月 公立大学法人化－「公立大学法人福井県立大学」に移行
- 平成21年 4月 海洋生物資源学部 開設
- 平成24年 9月 若狭高校と連携協定締結
- 平成25年10月 小浜キャンパス開設20周年記念式
- 平成29年 3月 県立大学と小浜市において「包括的連携に関する協定」の締結
- 令和 4年 4月 福井県立大学かつみキャンパス開設 海洋生物資源学部に「先端増養殖科学科」開設



学生状況

(令和4年4月現在)

		学 生 数	
海洋生物資源学部		海洋生物資源学科1年（永平寺キャンパス）	53名（男：35名 女：18名）
		先端増養殖科学科1年（永平寺キャンパス）	31名（男：27名 女：4名）
		海洋生物資源学科2～4年（小浜キャンパス）	154名（男：121名 女：33名）
大学院	博士前期課程	海洋生物資源学専攻（小浜キャンパス）	15名（男：13名 女：2名）
	博士後期課程	海洋生物資源学専攻（小浜キャンパス）	5名（男：3名 女：2名）
合 計		海洋生物資源学科1年（永平寺キャンパス）	53名（男：35名 女：18名）
		先端増養殖科学科1年（永平寺キャンパス）	31名（男：27名 女：4名）
		海洋生物資源学科2～4年、海洋生物資源学専攻生（小浜キャンパス）	174名（男：137名 女：37名）

就職・進学状況

(令和4年3月末日現在)

- 内 定 状 況 … 全体：100.0% 男：100.0% 女：100.0%
- 主な県内就職先 … 福井中央魚市（株）、福井県漁業協同組合連合会、京福コンサルタント（株）、福井県
- 主 な 進 学 先 … 福井県立大学大学院、東京海洋大学大学院

教職員状況

(令和4年4月現在)

- 教 員…教授：15名 准教授：11名 助教：1名
- 事務職員…事務：4名 司書：1名 専門事務・事務補助等：11名



令和4年度白樺祭開催日

10/1 土 ~ 2 日



*新型コロナウイルス感染症の状況により、変更になる場合があります。

新任教員紹介

福井県立大学海洋生物資源学部 教授 佐藤 秀一



この度、2021年10月より福井県立大学海洋生物資源学部の教授として赴任しました佐藤秀一と申します。

私は、東京水産大学大学院水産学研究科修士課程を中退し、東京水産大学水産学部に奉職し21年半、その後、東京海洋大学で18年間、教育研究活動を行ってきました。研究では、魚粉に含まれる微量元素の養殖対象魚における利用性、環境にやさしい養魚飼料の開発、低/無魚粉飼料などの持続可能な養魚飼料の開発等、養殖対象魚の栄養要求や飼料開発を行ってきました。

小浜市をはじめとする嶺南地域で養殖されているマサバ、マハタ、ニジマス、ヒラメ等到大変興味を持っております。特に、焼酎粕を用いたマサバ養殖には大変興味を持っておりました。いままでは、養殖現場から遠い東京の品川にいましたので、なかなか現場の声を聞くことができませんでした。この度、養殖が盛んな地域に来られましたので、現場の声を直に聞いて、研究に生かしていきたいと思っております

私は、新潟県の新発田市で生まれて19年間過ごし、その後、東京近辺で過ごしてきましたので、久しぶりの日本海側での生活となります。日本海の海の幸が豊富な小浜に来られて幸せです。これからは、地域の皆様と一緒に、少しでも地域貢献できるよう、微力ではございますが研究・教育に貢献させて頂きたいと存じます。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

福井県立大学海洋生物資源学部 准教授 小路 淳



2022年4月1日付けで福井県立大学海洋生物資源学部に着任いたしました小路淳と申します。これまで、魚介類の生態、増養殖、保全などの研究に関わってきました。藻場（アマモ、ガラモなどの植物が茂っている海）、干潟（潮が引いた際に現れる砂地）などの浅い海や、河川の下流に生息する魚類の種構成（どのような種が生息しているか？）や種間関係（エサや天敵との食う一食われる関係）を調べてきました。これらの成果をもとに、魚の卵や稚魚の生残率の向上、生息環境の保全、水産資源の回復等にご貢献することを目指しています。

小浜市は、若い人たちが海洋や水産を学ぶのに、たいへん魅力的な場所です。日本海側には少ないリアス式海岸に沿って、きれいな砂浜、荒々しい磯、海藻が茂る藻場など、多様な生態系が混在しています。これら複雑で多様な自然環境は、海の生物に多様な住み場所や餌生物を供給し、水産資源を育てていると考えられています。

さらに、小浜市は、海の文化も豊かな場所です。古くから御食国と呼ばれ、食文化や伝統産業とともに発展してきました。豊かな海の恵みを活用するためには、地域社会の仕組みも大切です。小浜市の多様で豊かな自然と文化を活かしながら、海の恵みを介して地域に貢献できる教育・研究に、学生さんや地域の皆様と一緒に取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



令和4年海友会会長

氏名 みやざき あらた 宮崎 新 さん
 学年 3年生
 出身地 福井県福井市

1 福井県立大学（海洋生物資源学部）に進学したきっかけは？

昔から海や川など様々な自然が好きで、そのようなことについて詳しく学びたいと考えていました。また、福井県出身なので、福井県に寄り添っている福井県立大学に魅力を感じ入学を決めました。

2 現在どのような勉強（研究）をしていますか、これから取り組みたい研究分野は？

海洋生物資源学部と言われるので、魚について研究すると思っていましたが、海流や経済、微生物、食品加工など福井県立大学の海洋は、様々な分野について詳しく学ぶことができます。私は、ITやIoTを活用した漁業の仕組みの確立を行おうと思っています。現状、漁業者の低迷や高齢化が進んでいます。そこで、ITを活用した養殖や漁場の場所の提供などを行いたいと考えています。

3 休日（夏季・春季休暇）はどのように過ごしていますか？

私は、ライフセービング部に所属しているので、夏は海に行って監視活動や練習などを行っています。また、長期休暇は、大学生は時間があるので旅行や趣味に没頭など様々なことを行っています。

4 小浜の印象は？

小浜市は、すごく自然に囲まれていると思います。すぐ近くには海や川、山など至るところに自然が豊かです。また、車がないと移動が難しいですが、車があれば友人と福井市に行ったり、京都や兵庫などの県外にアクセスしやすいと思います。

5 一言アピール

コロナ禍が続いたことにより、小浜市のみならず、福井県全体に活気がなくなっています。そこで、学祭や様々な行事に県大学生が積極的に参加をして活気づけたいと思います。また、福井県立大学小浜キャンパスは、小浜市を見下ろすような場所にあります。そのような場所を利用して、学生の活動を街中に響き渡るように行いたいと思います。



令和4年つぐみ賞受賞者

氏名 なかむら ともし 中村 智貴 さん
 学年 大学院博士前期課程2年
 出身地 栃木県

1 今回つぐみ賞を受賞することとなった研究内容の概要を教えてください。

私の研究では、海に生息する藻類が持つ、ケイ素でできた殻がどの様に作られているのかを調べています。今回の研究では、私が調べていた藻類において、これまで他の生物では見られなかったユニークな殻の形成方法を持っていることが分かりました。



2 その研究に取り組むこととなったきっかけは？

学生実験の一環で、珪藻の顕微鏡観察を行った際に、藻類の様な小さな生物が作る精密で多様な殻の形に惹かれたのがきっかけです。微細な藻類が持つ殻の作られ方には、まだ分かっていないことが多いため、自分で調べて明らかにしたいと考えました。

3 これまでの研究成果を踏まえ、今後どのように研究を進めていきたいですか？（研究を活かした将来の夢は？）

今回発見できた新しい殻の作られ方は、実際にどのような物質や働きが関与して形を変化させているのか、といったところが分かっていないため、今後はこれらを解明できるよう研究を進めていきたいと考えています。まだまだ先の話になりますが、ゆくゆくは今回発見できた作られ方が、すごく小さなシリカ構造を工業的に生産するヒントになればと考えています。

4 その他、何か一言アピール、または後輩へのアドバイスがあれば。

今後も、新たな発見を得ることができるよう研究に励んでいきたいと思っています。後輩の皆さんも、アルバイトや勉強等いろいろな忙しいと思いますが、自分が納得のいく研究成果が得られるよう頑張ってください。

海の近くで育ったおかげで子どもの頃から魚釣りや磯の生き物観察に親しんできました。中学生のときには県立大学を志望して、若狭高校海洋科学科を卒業後に県立大学海洋生物資源学部に入りました。小浜キャンパスでは、ワカメ養殖の研究をすると共に、環境保全クラブで海辺のゴミ拾いや外来種駆除の活動をしてきました。

4月から、株式会社まちづくり小浜に入社して、道の駅若狭おばまや食事処「濱の四季」の現場業務や、町家ステイの管理業務を通して、お客様とのコミュニケーションの大切さを学んでいます。

僕は季節ごとに違った魅力をもつ小浜の海が大好きです。将来的には県立大学で学んだことを生かしながら、多くの人に海の魅力を広めていきたいです。



大学での学びを生かして 海の魅力を広めたい

株式会社まちづくり小浜

おおすみ いっぺい
大住 一平 さん (23歳)

海洋生物資源学部卒



地域を愛する気持ち、 海の仕事に生かして

福井県漁業協同組合連合会小浜支所

おか りょういちろう
岡 諒一郎 さん (22歳)

海洋生物資源学部卒

子どものときに地域で自然体験活動をする機会が多く、中学生の頃には県立大学小浜キャンパスで自然や魚について学びたいと思うようになりました。

県立大学の海洋生物資源学部に入学後は、実習などを通して小浜の海の状況や海洋生物について学びました。小浜市やおおい町の定置網漁業者の皆さんに協力をいただきながら、若狭湾の海温が生態系に与える影響についても研究することができました。

現場でのフィールドワークが好きだったので、地域の人や魚と関わる漁業協同組合で働くことを志望して、4月に就職することができました。今は「競り」の仕組みや魚種について勉強をしていますが、実践を通して得るものが多く、やりがいがあります。

小浜は住みやすく、魅力もたくさんあるので、多くの若者がもっと定着するとういきたいと思います。

令和4年度会員募集のお知らせ

「県立大学小浜キャンパスを育てる会」は平成3年度に設立され、以来、地域と大学との結びつきを深め、地域に開かれた大学・市民に親しまれる大学となるよう、オープンカレッジや白檜祭など各種事業への支援や学生と会員・地域との交流など独自のイベントを開催し、積極的に事業を推進しています。

育てる会の活動にご協力をお願いします。

主な活動内容(令和3年度の活動実績)

- * 大学と地域の連携強化に向けた取組み
- * 教員、学生と会員、地域との交流
- * 学生が取り組む研究内容の発表
- * 学生生活応援(食料品支援)事業

年会費：個人会員 3,000 円 団体会員 10,000 円
 申込方法：電話もしくは下記までお越しく下さい。
 問合せ先：「県立大学小浜キャンパスを育てる会」事務局
 (小浜市企画部未来創造課内)
 TEL:0770-64-6008(直通)

団体会員

小浜市	おおい町	高浜町
美浜町	若狭町	株式会社 アイビックス若狭支店
ホテル アーバンポート	株式会社 イワタ	小浜魚商協同組合
小浜海産物 株式会社	小浜市議会	小浜市漁業協同組合
小浜市区長連合会	小浜市校長会	小浜市食品加工協同組合
小浜商工会議所	小浜商店街連盟	小浜信用金庫
小浜製綱 株式会社	桑田テント 株式会社	京福コンサルタント 株式会社
ホテル せくみ屋	有限会社 タカノ	大和交通 株式会社
株式会社 時岡組	農事組合法人 国富	有限会社 平田印刷
株式会社 平田不動産	福井缶詰 株式会社	福井銀行 小浜支店
株式会社 福邦銀行 小浜支店	株式会社 ファニーアート	株式会社まづくり小浜「おばま観光局」
株式会社 ママーストアー	三福タクシー 株式会社	矢代観光協会
サンホテル やまね	株式会社 ラボ	れいなん森林組合
(一社)若狭おばま観光協会	福井県立若狭高等学校	若狭河川漁業協同組合
若狭建設工業 株式会社	(一社)若狭青年会議所	若狭とびうお会
福井県農業協同組合 若狭基幹支店	若狭湾観光 株式会社	

個人会員

秋道 優太	東 武雄	阿部登記造	石田 一郎	一圓 敏彦	市橋 和廣	伊藤 秀幸
猪嶋 宏記	今井 静雄	今井 伸幸	岩崎 好信	岩田 拓美	岩田 敏夫	浦谷 俊晴
江上 恒夫	大橋 正博	大山 祐子	岡 拓司	岡田 昌樹	奥城 直喜	小畑志津子
垣本 正直	片山 守	角野 覚	加門 健二	川嶋 和雄	川代 友広	川代 雅和
川道 明	木崎 秀治	貴志 和之	岸本 洋一	北尾 一成	北野 絹子	木村 清美
休位 敏彦	国嶋 健一	窪田 光宏	熊谷 久恵	小寺 光雄	小西 淳二	小林 尚貴
齊藤 健太	佐久間 博	佐藤 善一	澤谷 欣弘	塩野喜一郎	食見 直孝	食見 礼子
重田 敬之	重田 洋輔	下仲 隆浩	芝田 明和	嶋田 幸起	清水 淳彦	清水 博敬
新野 秀志	杉左近孝夫	杉谷 正美	善定 末雄	高井 幸一	高鳥 徹也	高橋 敏恵
高山 智子	高山 久弥	竹内 裕喜	田中孝次郎	田中信太郎	谷口 竜哉	玉川 正隆
田村 仁志	團 留美	檀野 清隆	辻 日出雄	寺井 靖夫	堂前 武司	堂前 廣
中島 嘉文	仲谷 斉士	中西 武司	中野 春雄	中村 有一	野路 進	橋本長一朗
畑田 恭央	浜頭 浜江	浜岸 吉満	速水 誠智	東野 克拓	東野 洋士	藤田 和弘
藤田 成一	藤本 周次	古谷 義次	前川 昭彦	松岡 靖洋	松崎 晃治	松原 拓也
松山 貢	的場 貴志	三原 一太	宮台 俊明	村上 利夫	森下 博	森下 裕
森下 泰裕	山岸 博之	山口 雅巳	山崎 正博	山副喜代美	山本 祐也	湯上 忠明
吉岡 洋一	吉岡隆太郎	吉田 豊	吉田 善人	吉田 良三	吉村 明	吉村 利昭
四方 宏和						

■ 上記の皆さまにご入会いただいております。(令和4年5月現在)

発行：県立大学小浜キャンパスを育てる会 会長 松崎 晃治 事務局：小浜市企画部未来創造課